かぐや姫の昇天

かぐや姫は、手紙に不死の薬の入った壺を添えて、帝の側近の頭中将に託します。

中将取りつれば、ふと天の羽衣うち着せたてまつりつれば、
中将が（手紙と壺を）受け取ったので、（天人が）さっと天の羽衣を着せて差し上げたところ、

翁を、①いとほし、かなし、と思しつることも失せぬ。
気の毒だ、ふびんだ、とお思いになっていたことも消え失せてしまった。

この衣着つる人は、物思ひなくなりにければ、車に乗りて、
この衣を着た人（かぐや姫）は、物思いがなくなってしまったので、（天の）車に乗って、

②百人ばかり天人具して、昇りぬ。
（天に）昇ってしまった。

その後、翁、嫗、血の涙を流して惑へど、かひなし。
悲しみ心が乱れるけれど、どうにもならない。

その後、中将は帝に不死の薬の壺と手紙を献上しました。しかし、帝は、かぐや姫に会うこともないのに不死の薬など何の役に立とうかと、※駿河の国にあるという天に近い山の山頂に、不死の薬の壺を持っていくよう使者にお命じになりました。

峰にてすべきやう教へさせたまふ。御文、不死の薬の壺並べて、
峰（山頂）にてなすべきやり方をお教えになる。手紙、

火をつけて燃やすべきよし仰せたまふ。
燃やすべき旨をご命令になる。

そのよしうけたまはりて、士ども③あまた具して
（帝の使者が）その旨を承って、兵士たちを引き連れて

山へ登りけるよりなむ、その山を「ふじの山」とは名づける。
山へ登ったことから、名付けたのである。

その煙、いまだ雲の中へ立ちのぼるとぞ、言ひ伝へたる。
いまだに　言い伝えている。

※駿河の国…現在の静岡県中央部。

重要語句

いとほし	かわいそうだ・気の毒だ
思す	お思いになる
具す	引き連れる
仰す	言いつける・命じる
あまた	数多く・たくさん

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「いとほし、かなし」とは、誰のどのような心情か。適当なものを選びなさい。

ア 翁の、かぐや姫がいとしいと思う心情。
イ 天人の、かぐや姫がかわいそうだと思う心情。
ウ 中将の、翁がふびんで悲しいと思う心情。
エ かぐや姫の、翁が気の毒でつらく思う心情。

〔　〕

(2) ——線②「百人ばかり天人具して」が表す意味となるように、次の（　）に補う語として最も適当なものを選びなさい。

百人ほど天人（　）引き連れて

ア が　**イ** を　**ウ** に　**エ** と

〔　〕

(3) ——線③「あまた」の意味を選びなさい。

ア たくさん　**イ** 残りの　**ウ** 再び

〔　〕

(4) 次の中から、本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 中将は天の羽衣を取って、かぐや姫に着せて差し上げた。
イ かぐや姫は、嘆き悲しみながら月に昇っていった。
ウ 帝は峰で手紙と不死の薬の壺を燃やすようご命令になった。
エ 兵士たちは帝のご命令を承って、山の名を定めた。

〔　〕